

福山市

2017年度 第2号



青少年センターだより

福山市青少年センター
広島県福山市東桜町3番5号
(福山市役所青少年課内)

TEL 084-928-1046

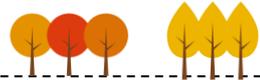
FAX 084-928-1229

E-mail seiyounen@city.fukuyama.hiroshima.jp

11月は「子供・若者育成支援強調月間」 ～支えよう 輝くひとの 夢みらい～

内閣府では、毎年11月を「子供・若者育成支援強調月間」と定めています。子供・若者育成支援に関する国民運動の一層の充実を図ることを目的としており、関係省庁、地方公共団体とともに諸事業、諸活動を集中的に実施するものです。福山市でも、街頭啓発活動や研修会等を実施し、家庭・学校・地域と協力しながら子供・若者の健やかな育成をサポートしていきます。

福山市青少年育成員協議会 ブロック別研修会



第1ブロック (東部・中央)

[日時]11月2日(木) 19:30～

[会場]福山市役所本庁舎3階 大会議室

講師：少年サポートセンターふくやま 課長補佐：河崎湯里 少年育成官

演題：「スマートフォン(LINE等)の危険性と対処について」

少年サポートセンターふくやまの少年育成官を講師に迎え、スマートフォン社会の現状や危険性についての講演会を開催します。福山市青少年育成員及び青少年の健全育成に関心のある方は、是非、研修会にご参加ください。

第2ブロック (西部)

※「子供・若者育成支援強調月間」講演会と合同開催

[日時]11月24日(金) 19:00～

[会場]西部市民センター 市民ホール

講師：少年サポートセンターふくやま 新田和美 少年育成官

演題：「スマートフォン(LINE等)の危険性と対処について」

第3ブロック (北部)

[日時]10月27日(金) 19:30～

[会場]北部市民センター 市民ホール

講師：少年サポートセンターふくやま 田川文 少年育成官

演題：「スマートフォン(LINE等)の危険性と対処について」



命の門番“ゲートキーパー”を知っていますか？

～福山市の自殺者数～

警察庁の調査によると、2016年の自殺者数は全国で2万1897人とされています。特に、若者の「自殺」が深刻化しており、2016年に全国で小学生12人、中学生93人、高校生215人、計320人の子どもたちが自殺で亡くなりました。福山市では、自殺者数は減少傾向にあるものの、若年層の自殺者減少幅が少ないという現状です。子どもたちの自殺の原因は学業不振、親子関係の不和、健康問題などと様々で、特に新学期にあたる4月や、長期休業明けである9月に増えるといわれています。

年	市自殺者数
2011	99人
2012	89人
2013	81人
2014	71人
2015	82人

そこで、子どもたちの大きな味方となるのが「ゲートキーパー」と呼ばれる人たちです。ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。自殺で亡くなった方についての相談状況の調査では、家族に相談しているのは12%、精神科

に相談しているのは2%に過ぎないといった結果も出ており、悩みを共有し、こころの居場所を作ることの重要性が伺えます。福山市でも自殺対策講演会やゲートキーパー研修会等を開催し、自殺予防に取り組んでいます。ゲートキーパーは一人で活動するものではありません。気づいた人が協力しあい、身近な人のために実践していくことが必要です。子どもたちのかけがえのない命を守るため、まずはできることからひとつずつ始めていきたいものですね。



指導員の窓



長い夏休みも終わり秋の風を感じながら、新学期がスタートしました。毎年この時期になりますと不規則な生活習慣が大きく影響して、遅刻・怠学・早退の件数が増加します。ここ最近でも、校門の前まで行ったにも関わらず、人間関係の悩みから中に入れないで帰宅してしまう中学生に直面することがありました。こういった悩みによるものが多いようですが、中には理由がハッキリしないといったものもあります。夏休みで学校生活の緊張感から解放されることに慣れてしまい、不登校になってしまう子どもたちも少なくありません。

一方で、私たちが声かけをする子どもたちは近年減少傾向にあります。これは、生徒の規範意識の醸成に向けた生徒指導の徹底が少しずつ成果に繋がってきていると考えています。

しかしながら、この夏休み期間の巡回では、ほぼ毎日のようにタバコの吸い殻、飲食後のゴミが商業施設の敷地内に散乱しているなど問題は多々あり、まだやるべきことは残されています。現在、警察・教育委員会・当センターの3機関で定期的に情報交換を行っていますが、私たちが実態を十分に把握しきれていないところもあります。情報が沢山あるほど実態把握の精度は高まりますので、街で見かけた子ども、顔見知りの子どもの言動や行動で気になるところを見かけられた際は、皆様からの声をあげていただくことがとても重要となります。

そして、未来ある子どもたちが健全に育っていくよう地域の皆様とも連携を深め、取り組んでいかなければならないと感じています。（田坂）



中央青少年育成員のコーナー

補導員から育成員に名称変更してから5年が経過。中央青少年育成員として、福山市で71名が活動している。「青少年の健全育成」というスローガンは一緒であるが、根底に流れる熱い思いは千差万別である。神辺6学区では単独で会議を開いている。今年もその一つに、「挨拶運動」は欠かせないと決定。神辺・湯田村・道上の各駅で朝もしくは夕方に、年6回程度実施している。

赤ん坊ですら、「オギャー」の第一声で挨拶をし、この世にデビューする。挨拶は人との出会いの最初の言葉である。卒業後、就職をする生徒も多い。キチッと挨拶の出来る人は当然好感度も上がる。地元で、挨拶の出来る身仕度をさせてやりたい。故郷を離れ、恥をかかぬように、孫の年代にあたる子達故に、その思いは強い。我が子に、挨拶はキチッとしろと育ててきたのと同じ思いで！

「オハヨー」「オハヨーございます」の一声も、各育成員により微妙に違う。優しい口調、語り掛ける口調、・・・それぞれである。大きな声でハッキリと、後ろにいる子にも聞こえるようにと、思いを込めて小生は発声している。「気をつけて行っておいで！」とか、次に続く言葉も状況により微妙に変化。2年前、「おじさん達、給料もらってやってるの？」とK校の生徒。「君達がキチッと挨拶出来る様に、ボランティアでやってる！」と返答した。後日の挨拶運動時、「ご苦労様です」と近づいて来たのは、あのK校の生徒であった。こんな日は、すがすがしい一日となる。

子ども達を取り巻く環境が刻々と変化する中で、育成員として何が出来るか、日々模索しながら活動している現状である。（神辺御野学区：安原）

～編集後記～



先日、青少年育成自立支援事業で座禅体験を行いました。座禅にはストレス解消やリラックス効果など、脳や心など精神的な部分を健康状態に保つ効果があるそうです。心を無にして、姿勢を正し、心を落ち着かせてゆっくりと呼吸をする。座禅を始めてしばらくすると、頭の中に考え事が浮かんで来て集中できていないことを自分で痛感します。日常では意識して無心になるということがほとんどなく、参加者も私も良い体験ができました。少しずつ一歩ずつでも、こういった体験が参加者の未来に繋がるように実践していきたいと考えています。（南）